

令和2年度 福井県立若狭高等学校（全日制） 『学校関係者評価書』

1 重点目標や具体的取組は適切か	2 学校評価書の「成果と課題」は適切か
3 学校評価書の「改善策、向上策」は適切か	
参加いただいた学校関係者 PTA会長 元教頭 計2名	
<p>○教育課程・学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆「生徒が計画的・継続的な学習ができるよう指導する」という点について <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習時間、学習習慣、課題の提出状況などいずれも数値が上がり、コロナ禍のなかで丁寧な指導が行われたことが意識の向上につながったと考えられ、たいへんよい傾向にあると思われる。ただ、家庭学習時間が1時間未満という生徒が約3割存在しており、学習に向かう姿勢が2極分化しているのではないかと懸念もあるため引き続き該当の生徒への指導をお願いしたい。 ◆「教職員の授業力向上に努める」という点について <ul style="list-style-type: none"> ・公開授業期間や研究授業、教職員相互の授業見学などがさかんに行われ、先生方みずからが研修に努めておられる成果が生徒に還元されていると感じている。毎日7限までの授業から週2回6限授業になったこともあり、生徒が自らの意志で学習に向かう機運をさらに高めていただきたい。 	
<p>○生徒指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆「思いやりや助け合いの心を醸成する」という点について <ul style="list-style-type: none"> ・若狭高校はいじめや不登校は少ないと聞いている。97%の生徒が他人を傷つけない言動を心がけているということで、たいへんよい結果がでている。今後も未然防止、早期対応に努めていただきたい。事例は少なくともいじめなどはその問題に直面した生徒にとっては大きな問題なので、その対応もしっかりお願いしたい。 ◆「遅刻ゼロを目指す」という点について <ul style="list-style-type: none"> ・不注意による遅刻者は少ないと感じている。電車通学者が多いことも数値が低いことの一つの要因であろうと思われる。規則的な生活の前提となる「早寝、早起き、朝ごはん」は、PTAのスローガンでありこれは家庭の大切な役割なので、PTA活動等を通して今後も呼びかけていきたい。 ◆「生徒会活動の充実に努める」という点について <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のなかで行事を行うにはさまざまな苦労があったことと推察される。その中で達成感を感じている生徒の割合が向上したことはたいへんよかった。縦割り集団による行事の運営は若狭高校の伝統でもあるので、生徒主体を維持しつつ、継続・発展させてほしい。 	
<p>○進路指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆「的確な情報発信に努める」という点について <ul style="list-style-type: none"> ・情報発信の成果があったとする数値が、それを発信する側、受ける側とも90%をこえており、おおむね良好な状態であると思われる。大学入試制度が今後も大きく変容し、コロナ禍で求人状況が悪化することなども考えられるため来年度も引き続き最新の的確な情報収集とその発信をお願いしたい。 ◆「求められる能力の向上・育成に努める」という点について <ul style="list-style-type: none"> ・高校卒業後の進路に関することは入学時から保護者の一番の関心事である。予備校などが多く存在する都会と違って地方は学校に期待する比重が高い。先生方の負担も大きいと思うが、それだけ信頼していることの証左でもあるので、連携をよくとり、個に応じた指導を今後も充実させていただきたい。 	
<p>○保健管理・教区相談</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆「健康管理ができるように努める」という点について <ul style="list-style-type: none"> ・自分の健康に対する自己管理ができないと人に対する思いやりも希薄になる。本校は約9割の生徒が自己管理ができていると答えている。落ち着いた学校生活の基本ができていると考えられ、同時に自己肯定感にも繋がっているのではないかとと思われる。自己管理意識が低いと自身で感じている約1割の生徒に対する働きかけをお願いしたい。 	

◆清掃活動について

- ・清掃への取組みは、平等で公平な社会の在り方や奉仕について考えるよい機会になるので、引き続き地道な活動を続けていただきたい。
- ・ゴミの分別方法が地域によって違うので、その説明をしっかりとっておく必要があると思われる。

◆「生徒と面談する機会を多く持つ」という点について

- ・9割近い先生が年間4～5回の面談を行っているという結果をみて、たいへんありがたいと思う。生徒は授業、部活動、学校行事、その他いろいろな場面でそれぞれ違った顔を見せると思われるので、できるだけ多面的に把握していただき個別の指導に繋げてほしい。

○地域住民との連携

◆「積極的な広報を心がける」という点について

- ・コロナ禍で書面によるPTA総会となるなど制限の多い1年だったが、活動に対する評価が高かったのはたいへんよかった。来年度も活動の制限は続くと思われるが、引き続きさまざまな工夫を期待したい。

○図書整備

◆「図書室の利用者数の増加を図る」という点について

- ・クロムブックの導入によって図書室のPCを借りる生徒が減ったのではないかと推測されている通り、利用形態が変化していると思われる。広い意味で情報を提供する場としての環境整備をお願いしたい。

◆「生徒の図書利用を促進する」という点について

- ・ICT機器の利用が推奨されるとはいえ、読書の効能が否定されるものではないので、購入希望にできるだけ応えとあるように、その対策も引き続きお願いしたい。

○探究的な学習

◆「授業のあり方について研究を深める」という点について

- ・教員の95%が何らかの形で探究的な学びの手法を取り入れ、生徒の91%が自身に課題設定能力が育っていると自覚しているという結果から、本校が目標に向かって着実に進んでいることがわかる。さまざまな取組みが今後も計画されているようであり、その成果に期待したい。探究活動がすでに高校教育のキーワードになっているが、5年後、10年後を見越した取組みを構築していただきたい。

○学年会

◆「3年間を見据えた計画・実施・再検討を各学年団で共有する」「地域や保護者へ教育内容をわかりやすく提示する」という点について

- ・各部署、各学科、各学年間の横の連携をはかった結果、クラス担任によるきめ細かな面談・学びの支援につながったと分析されてあるが、ここまでのさまざまな評価がそれを裏付けているようである。県内では大規模校に入る学校でもあり、校務の細分化が連携の希薄化につながる事のないようにすることはたいへん重要である。望ましい連携の在り方を今後も工夫し強化していただきたい。
- ・学校HPやGoogleクラスルーム、Zoom、SNS等ICT機器を利用した情報の送受信は今後ますますさかんになると思われる。有効かつ安全な利用方法を工夫して生徒支援に繋げてもらいたい。